

令和6年度 県立松浦高等学校卒業証書授与式 式辞

春の息吹を感じる今日の佳き日、ここ風薫る丘から、48名の61回生がそれぞれの未来に向かって旅立とうとしています。

本日ここに、長崎県議会議員石本政弘様をはじめ、ご来賓の皆さまのご臨席をたまわり、長崎県立松浦高等学校 第61回 卒業証書授与式を挙げてできますことは、大きな喜びであります。心からお礼を申し上げます。

本日、松浦高等学校を卒業される61回生の皆さん、おめでとうございます。教職員を代表してお祝い申し上げます。

また、卒業生をこれまで励まし、支えてこられたご家族の皆様にも、お祝いの気持ちと3年間本校への支援を賜りましたことに、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。3年間、ありがとうございました。本日のお子様の立派に成長した姿はいかがでしょうか。18年間の子育て、本当にお疲れ様でした。今日、卒業生の皆さんの晴れ姿を、ご家族の方、在校生、先生方、地域の方々にご覧いただけて、私も心から感激しています。

卒業生の皆さん、3年前の4月、皆さんは「地域科学科」という前例のない新しい学科と、地域人材の即戦力を育成する「商業科」という2つの学科が力を合わせ、新たな学びを展開しようとする松浦高校に入学してきました。皆さんは、新生松浦高校の一期生でもあります。

この3年間、皆さんは、「地域をフィールドとした多様な学びを広く・深く探究する学校」を、教職員と一緒に創り上げてくれました。前例のないことに取り組むことは、まさに「挑戦」です。皆さんたちの「挑戦者」として3年間の様子は、私たち教職員の心に深く刻まれています。

特に私の中では、次の2つのことが印象に残っています。

一つ目は、やはり「まつナビ」のことです。普通科から新しい地域科学科へと再スタートを切って、最も大きく変わったのは週に1時間であった「まつナビ」が週二時間の実施となったことです。当然、先生方はプラス1時間で何を行い、皆さんにどのような力を付けてほしいかを議論したうえで、「まつナビ」の時間を展開していきます。ただし、「まつナビ」における「テーマ」や「課題」の設定は生徒の皆さんが考えて、決めることです。つまり、皆さんの主体性が鍵になります。実際に皆さんたちの「まつナビ」は、大成功だったと思います。それは、様々な発表のテーマに表れています。廃校舎の利活用、アジフライのガチャポン、フードフェスタ、「河童と河太郎」のPRなど、多様なテーマにあふれていました。皆さんたちの多様な興味・関心があってこそそのテーマであります。さらに、3年では地域への恩返しの気持ちを込めた活動にも取り組んでくれました。

二つ目は、体育祭です。9月に実施していたものを、暑さ対策として5月開催へと変更しました。私たち教職員は、体育祭の準備、特にフェスタの準備が間に合うのかと大変心配していました。しかし、皆さんたちの競技での澁漑とした動き、そして入学してきたばかりの一年生を含めて三学年をしっかりとまとめた上げたフェスタ、最高でした。

この二つとも松高にとっては新しい取り組みであり、皆さんたちは、先ほど述べたように「挑戦者」としての足跡を、この松高にしっかりと刻んでくれました。

「僕の前には道はない 僕の後ろに道はできる」 彫刻家で詩人の高村光太郎のこの言葉のような3年間を、皆さんは歩んできました。皆さんの功績は、後輩たちが受け継いでくれるはずです。

Stay hungry. Stay foolish.

iphone をこの世に送り込んだAppleの創業者で、「挑戦者」であり続けたスティーブ・ジョブズが、今から20年前に行った伝説のスピーチで述べた最後の言葉です。

Stay hungry. Stay foolish. 翻訳すると「貪欲であり続けなさい。愚直であり続けなさい。」となります。個人的には「ハングリー精神を持ち続けよ、小さくまとまった人間になるな」と意識したくなります。

このスピーチで、スティーブ・ジョブズは、伝えたいことの最初に次の言葉を述べます。

The first story is about connecting the dots.

connecting the dots 「点と点を結ぶこと」。

スティーブ・ジョブズは、経済的な理由で大学を半年で退学しています。しかしよく知られていますが、退学後もその大学の授業を受け続けています。そして退学後に彼が受けた授業の中に、calligraphy の授業がありました。calligraphy とは、「文字を美しく見せるための手法」のことです。日本の書道に通じる学問です。彼は、ニセの大学生として、様々な書体、文字と文字の間のスペースを変える手法など、芸術性の高い calligraphy の授業にのめり込みます。そこには、これを学んで将来何かの役に立たせようという考えは全くありません。純粋にその学問が面白かったそうです。

その10年後、Apple 社がパソコンの開発を進めている時に、calligraphy の授業で学んだことがスティーブ・ジョブズの脳裏によみがえってきたそうです。そして、この時世に送り込まれたパソコンには、最先端の機能に加えて複数のフォントと文字と文字の間の調節機能など、美しさを重視した機能が備えられていました。それが進化し続けて、現在のパソコンは機能美にあふれる本体だけでなく、千種類以上もの使用可能なフォントが準備され、美しい文書の作成に役立っています。

大学を中退して興味が湧いた calligraphy の授業という「点」と、新開発のパソコンという「点」が10年の時を隔ててつながったわけです。

これを皆さんに置き換えると、皆さんが松高で学んだことや松高で広げた人間関係という「点」が、皆さんの何らかの未来という「点」につながるということです。高校3年間に学んだこと、高校時代の人間関係は、大変貴重なものです。

そうした、まだ見えてこない未来を切り開くためにも、

Stay hungry. Stay foolish.

「ハングリー精神を持ち続けよ、小さくまとまった人間になるな」

というマインドを持ち続けてほしいと思います。

この過去と未来とのつながりということ言えば、昨年、日本原水爆被爆者団体協議会がノーベル平和賞を受賞しました。そして、今年は被爆80年となります。無差別兵器である原爆、核兵器の被害に苦しむ方々が、人類が二度と同じ苦しみを経験しないことを願い訴えてきたことが、ノーベル平和賞の受賞につながりました。これは、「点と点のつながり」ではなく、絶え間ない無数の「点」の活動が高く評価されたものです。皆さんは、小中高の12年間、8月9日に平和学習を行ってきました。長崎県は県全体で8月9日に平和学習を行っていますが、実は同じ被爆地である広島県では、8月6日に県全体で平和学習を行っていません。よって、長崎県の高校を卒業した人は、日本で最も平和について考えてきた人間だと思っています。今年で被爆80年ということは、平和を訴え続けてきた被爆者がこの世に存在しなくなる

時代が、遠くない未来にやってくるということになります。12年間の平和学習が、平和を求め続けようとする皆さんのマインドにつながっていくことを、心から願っています。

最後に一つお願いがあります。

昨日、皆さんを「まつナビサポーター」に委嘱しました。皆さんが、これまで地域について学んできた経験を、それぞれが住む地域で生かしてください。日本の地域社会は課題だらけです。高校時代に学んだことを、この松浦のために、社会のために、そして皆さんが住む地域のために生かしてもらえると嬉しい限りです。

逆にこれから先の人生で皆さんが、人生の選択に迷うことがあれば、ぜひ母校に相談に来てください。この風薫る丘から見える青い海と青い空、君たちを育ててくれた美しいふるさと、そして家族は、君たちの帰りを温かく迎えてくれます。

皆さんと、この松浦高校で3年間ともに学ぶことができ、本当に感謝しています。皆さんの前途に幸多からんことを心から願っています。

令和七年三月一日

長崎県立松浦高等学校長 舟越 裕